

このコーナーでは、男女平等参画をはじめとする様々なテーマの本を紹介します。  
男女平等推進センター「パリティ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



今日から始める学級担任のためのアドラー心理学  
(図書文化)  
著者：会沢信彦  
岩井俊憲

TVドラマにもなった別著「嫌われる勇気」でアドラー心理学に興味を持ち、本書では違う視点から読むことができました。アドラー心理学は「ほめる」も「叱る」も禁止。「承認欲求」すら放り投げます。何をするかといえば「ただ認めて勇気づける」。家庭や学校で具体的にどのように子どもを勇気づけられるのか、テクニック満載で紹介されています。



増補 母性愛神話の罠  
(日本評論社)  
著者：大日向雅美

「子を産んだ女性は誰でも母性愛が備わっている」という母性神話が現存し女性を苦しめる。子どもの養育は全て母親の責任とされ、理想の母親を強いられる。「こんなはずじゃなかった」「子どもが可愛くない」と、うまくいかない子育てに親が自信を無くす背景には、子育ての現実の厳しさを覆い隠す社会のあり方がある。様々な事例から母性愛を探る。



サイコパス  
(文春新書)  
著者：中野信子

恐らく「サイコパス」と聞いて、ポジティブなイメージを持つ人はいないだろう。そして、自分にとっては関係ないことであると思うのではないかと。しかし、著者によれば、なんと約100人に1人くらいの割合でサイコパスは存在するという！世の中には色々な特性を持つ人がいるのだということを改めて考えさせられる一冊である。

ステキに  
男女平等参画！  
「イクボス」編

in  
西東京

ちこうごういっ  
モットーは「知行合一」

No.7

社会福祉法人至誠学舎東京理事長 阿亜紀良さん (西東京市在住)



▲残業しているスタッフを見つけると「早く帰ちなさい」と声をかける阿さん

私は、保育園や介護施設などを経営しているので、保育士・介護士・看護師など女性の職員が多い職場にあります。職員の方に長く勤めてもらうためにも、各事業で産前産後休業、育児休業、介護休業などの制度を早くから取り入れており、最近では男性職員も利用しています。

それでも、社会的な現状としては0歳児を受け入れる保育園が不足気味で、育休明けに仕事への復帰がスムーズにいかないケースもあるため、今年の4月に事業所内に職員用の保育室(0歳児保育)を開設したところ、現在2名の職員が利用しており、これから出産予定のある職員にも喜ばれていると聞いています。

子育て経験のある保育士は、親としての気持ちや立場も理解できるようになり、保護者との信頼関係を築けるようになるなど、それぞれの職員が育児や介護を通して経験してきたことを職場でも活かし、後に管理者として活躍するケースが多いです。

また、当法人のグループ事業では1人のスタッフが年間約8回の研修を受講できるようにスキルアップの環境を整え、将来のキャリアパスも目に見えるようにし、安心して長く勤め続けられるようにと考えられています。もちろん、有休消化や長時間労働の管理も行っており、職員の心も身体も健康であるように常に気を配っています。



私自身この取材を受けるまで「イクボス※」という言葉には馴染みはなく、当たり前のようにやってきたことなのですが、これからも管理職や職員と共に働きやすさを考え、常に課題を意識し、解決していく「知行合一」のスタイルを続けていきたいと考えています。

※イクボス…部下の育児休業取得を促すなど、仕事と育児を両立しやすい環境の整備に努めるリーダーを「イクボス」と呼びます。